

## 第4回「徳島県読書バリアフリー推進協議会」会議録

令和4年3月28日（月）10時30分から12時まで 県庁10階大会議室及びWeb

（事務局より説明）

委員長

ありがとうございました。

事務局の方から、令和3年度の事業報告と、令和4年度の事業計画について御説明いただきました。また、城北高校放送部の素晴らしい音訳も聞いていただきました。委員の皆様の中には、この事業に御一緒に取り組みられた方もいらっしゃいます。また、図書館職員の研修に参加されたり、発表されたりした委員もおいでですので、それらの御感想や御意見ですとか、活動を踏まえた上での来年度の事業についての御提案など、どこからでも結構ですので、お願いいたします。

委員

私たちは点訳をしていますので、音訳のことではないのですが、作っている点字図書はサピエにアップするか、盲学校に送らせていただくという形を取っております。ただ、私たちの近くに利用者さんがいらっしゃらなくて、利用者の方の声をお聞きしたいという気持ちがずっとありました。来年度、公立図書館等職員研修で予定されている「視覚障がい者等利用者の方による講演」を聞かせていただきたいと思います。

委員長

点訳図書を利用されている方の御意見が聞きたいということですね。このような機会を作っていただきたいという御意見ですが、委員、いかがですか。

委員

委員は長年点訳をされているベテランの方でいらっしゃいますけれども、現在点訳をされているボランティアの方に対しては、視聴覚障がい者支援センターの方で企画して、点字図書利用者の方の声を聞く機会を設けたいと思います。

委員

ありがとうございます。ぜひ参加させていただきますので、よろしく願いいたします。

委員長

委員、貴重な御意見ありがとうございます。この機会に、また一步進んで良かったと思います。委員、ありがとうございます。ほかにございませんか。

委員

2点申し上げます。1点目は、令和3年度の事業の中に、特別支援教育の支援員の方が参加された研修についての報告がありました。このような特別支援に関わる方々が御参加いただける研修は非常に大切だと思うので、今後も裾野を広げるような取組を実施していただきたいと思います。2点目は、令和4年度の事業計画の中に、新しくバリアフリー図書セットの貸出についてのお話がありましたが、具体的にはどのような貸出になるのか、教えていただければと思います。

委員

バリアフリー図書、主に録音図書になるのですが、それらを50タイトルずつ5セット用意して、御希望の図書館・特別支援学校・学校図書館等へ貸出をしようと考えています。貸出をするときには、視聴覚障がい者支援センターの職員が持参して、同時にデジタイズ図書再生機器の使い方を説明するなど、丁寧な対応をしていきたいと考えています。

委員

期間は例えば1週間くらい学校に置いておいて、子供たちが授業等で活用するというようなイ

メージでよろしいでしょうか。

委員 50タイトルありますので、もう少し長く、数か月単位で貸出をして、返却の際に御希望を伺って、また別のセットの貸出しするという形を考えています。サピエ図書館からダウンロードして、CDにしたものをセットにして貸出する予定です。

委員 希望するところに貸出をするのですね。

委員 はい。希望する公立図書館や学校図書館等に貸出をする予定です。

委員 次年度の「高等学校での音訳図書製作体験」について教えてください。高校放送部1校に依頼をして実施するということですが、この1校は、今年度実績のある高校に再度依頼をするのか、あえて新しい高校に依頼をして広げていく方向なのか、あるいは「ひろがる読書推進事業・高校生のための音訳講習会」で高校4校が参加されたという報告もあるので、そうした任意の参加高校から1校を選んで、丁寧に繰り返し研修をされるという方向なのか、このあたりについて、方向が定まっているようでしたら教えてください。

事務局 来年度は別の高校の放送部に体験していただく予定です。どこの高校にお願いするかはまだ決まっておりません。さらに、「ひろがる読書推進事業」の方で、来年度も「高校生のための点訳講習会・音訳講習会」を実施予定です。これは半日ほどの簡単な講習会なのですが、こちらは広く県内の高校、放送部を中心に案内をして参加いただきたいと思います。

委員 1タイトルを作成するのは何回か講習が必要になってきますので、複数校で実施するとなると、学校によってスケジュールも違いますので、日程調整が非常に難しくなってきます。そのため、1校で実施するのが現実的な方法であると思います。

今年度、製作体験を担当した職員からの感想を申し上げます。写真を御覧になってお分かりいただけたと思いますが、最近パソコンを使って録音も編集も全て行います。高校生はこういったIT機器に非常に強いので、編集作業等も飲み込みが早く、感心したと申ししておりました。また、先ほど声を聞いていただきましたが、5名ということで、音量の調整が多少難しいところがあったようですが、資料の中の「生徒の感想」にあったように、普段の読書は目で読んでいたけれども、声に出して相手に分かりやすく伝えるという貴重な体験ができたという感想をいただいたので、こちらの方も大変嬉しく思っております。

図書館職員の研修の方は、今年度は県立図書館の中火様や徳島市立図書館の廣澤様にお世話になり、大変貴重な研修会になりました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

委員 1校にしぼって丁寧に重ねていく必要があるということについて、よく理解できました。それと同時に広げていくということで、今年度の城北高校とは別に依頼するという方向性についてもその通りだと思いますし、もう一点、高校の放送部ですと、毎年生徒の入れ替わりがあるので、先輩から後輩に着実に根付かせていくという意味で、同じ高校でも、十分活動を広げるという意図には合っているのかなと思いました。そのあたりは現実的に、協力校との調整の具合によって選ばれていくのでよろしいのではないかと思います。報告を拝見し、着実に実績を重ねられているというふうに感じました。

- 委員 確かに、城北高校の生徒さんにせっかく貴重な体験をしていただきましたので、このまま終わってしまうのは惜しいと感じております。継続していくということも検討していった方がよいのではないかと考えております。
- 委員長 ほかに御質問・御意見はございませんか。  
もう一つ議題がございます。「その他読書バリアフリー推進について意見交換」とあります。資料④に「点字図書館と公立図書館等の連携について」イメージをまとめたものがございます。このような連携も含めて、ほかに意見はございませんか。  
阿波市立図書館は、この1月から土成図書館でプレクストークを体験できるよう設置を開始しているということですが、状況を教えていただけますか。
- 委員 展示はしておりますが、まだ視覚障がい者の方の利用はない状況です。3月20日（日）に「プレクストークの使い方」を、阿波市内のボランティアさんや学生さんを迎えて研修を行いました。今年度はコロナ禍で、イベントの広報も十分できない状況でした。来年度は学校サポートにも入っていますので、小学校の方にも広げていきたいと考えています。
- 委員長 コロナの影響が非常に大きくて、イベントを予定していても広報がなかなかできないという辛さもあったと思います。
- 委員 公立図書館等職員研修会も、ちょうどコロナの感染が拡大してしまっていて、学校図書館の方々の御参加が難しく、学校図書館の方にデイジー図書再生機器の操作について説明する機会がなかったのが残念でした。令和4年度は、特別支援学校や特別支援学級など、点字図書館の方がなかなか把握できていないディスレクシアの方、発達障がいの方々にも、音声による図書で読書が楽しめる方もいらっしゃるかもしれませんので、そういう方々にもお知らせできる機会があればと考えております。
- 委員 県立図書館は、県教委・視聴覚障がい者支援センターと連携した取組を行ってまいりました。令和3年度の実績について御報告させていただきます。  
7月の「徳島県図書館職員研修会」において、生涯学習課より「徳島県読書バリアフリー推進計画と具体的施策」について、また視聴覚障がい者支援センターより「点字図書館とサピエ図書館の現状」及び「視聴覚障がい者支援センターの取組」についてお話しいただき、実りの多い研修とすることができました。11月には生涯学習課主催の「図書館サポーター養成講座」に、当館のデイジー・マルチメディアデイジー・大活字本・L・Lブックというバリアフリー図書をセットにして貸出をし、研修の参加者に実際に触れていただきました。  
そのほか、視聴覚障がい者支援センターへ当館の司書が出向き、点訳・音訳をされている方に「読めないことばの調べ方」について、辞書の調べ方や検索の仕方などの講義もいたしております。点訳・音訳をされている方から直接、県立図書館へ読みのレファレンスも数多く受けている状況です。  
このような形で、県立図書館といたしましては、来年度以降も他の公立図書館・教育委員会・視聴覚障がい者支援センターとの連携を進めていきたいと考えております。
- 委員長 これまで皆様から令和3年度の取組をお聞きしていると、図書館の職員の皆さんを集めた研修会の中でも、このような障がい者サービスがあることや、視覚障がい者の困りごとについて今

まで気づいていなかったという御意見があったようですので、半年前からまだスタートに着いたばかりで、本当にこれからだという感じがいたします。

委員           私は以前、学校図書館の担当もしておりました。資料④に、「タブレットを使った読書支援」というところがございます。私は退職後、県立図書館の研修会で、今、読んでいるところに傍線が表示されたり、スムーズに読むために必要なところ以外を消したりして本が読めるというのを見せていただきました。ひょっとしたら、タブレットによって、もう少し読書に向かえた子供たちがいたのではないかと思いました。ですので、学校の図書担当の教員にもぜひ、いろいろなことを知らせてあげてほしいと思うのです。そうすれば、少しの工夫で読書ができるようになる子供がいるかもしれません。そういう子供たちを支援できるように、図書担当の教員への広報、研修の場があればよいと思いました。

委員           通級の子供たちを担当する教員等にも、同じような研修の場があればよいと思います。

委員長       先ほど委員からも、学習障がいの子供たちへの周知もしていきたいという御意見がございました。今後、学校への周知もお願いしたいと思います。  
それでは時間となりましたので、以上で協議を終わります。